１９５１年１２月７日第三種郵便物認可

社会民主党機関紙
NO.67
熊本県版

社会新報
THE SHAKAI SHIMPO

2026年夏号 （ 曜日）号外
発行所
社会民主党全国連合機関紙宣伝局
週刊（木曜日発行）
〒104-0043 東京都中央区湊3-18-17マルキ榎本ビル5F
電話代表 03(3553)3787・振替 00140-1-3203
●定価185円 ●1カ月720円 ●送料168円

平和憲法を次世代へ

橋村りか副党首、益城町で渾身の街頭訴え

「命を売りさばく国」から
「命を慈しむ社会」へ。
今こそ声を上げよう

五月晴れの5月14日、社民党の橋村理香副党首は、益城町での定例街頭演説に立ち、平和憲法改悪の動きが加速する現状に強い警鐘を鳴らしました。共産党や市民連合の仲間たちも駆けつける中、橋村副党首は「憲法9条こそが私たちの命を守る盾である」と、魂を込めた訴えを行いました。

■戦場の記憶を託した90代男性の叫び

橋村副党首は、ある90代の戦争体験者との出会いを紹介しました。戦地で助けを求める女性の手を振り払い、逃げるしかなかった凄惨な記憶。「墓場まで持っていく」と決めていたその男性が沈黙を破ったのは、今の日本が再び戦争の道へ突き進もうとしている危機感からでした。

「人の命よりも、国家が優先される社会に戻してはならない」。男性から託されたそのバトンを受け継ぎ、橋村副党首は「一人ひとりの命が何よりも大切だと言い続ける社会を、今こそ私たちが作らなければならない」と決意を語りました。

■「抑止力」の名の下に
切り捨てられる弱者

演説では、健軍駐屯地へのミサイル配備に怯える車椅子ユーザーの女性研究者の苦悩にも触れました。「有事になれば自分のような人間は真っ先に切り捨てられる」と、熊本での研究を捨てて帰郷さえ考えた彼女の絶望。

橋村副党首は、武器輸出を「トップセールス」と豪語する現政権を猛烈に批判。「他国の誰かを殺す武器を売りさばく『死の商人』に成り下がったこの国のあり方を、私たちは変えていかなければならない。戦うための武器を持つのではなく、戦わなくて済むための信頼を築くのが政治の役割だ」と断じました。

■熊本から「反戦・平和」のうねりを

「軍都」としての側面を持つ熊本において、自衛隊員とその家族の命を守ることも社民党の重要な使命です。橋村副党首は、隊員が戦地へ送られることのないよう、そして子どもたちが「あの時なぜ止めてくれなかったのか」と涙することのないよう、今この瞬間の行動を呼びかけました。

社会新報熊本県版のバックナンバーは下記のアドレス、
右の二次元コードからご覧いただけます
https://drive.google.com/file/d/1imqtoZT6gVr-xe6D0_zK7hwPN8N1KGBK/view?usp=sharing

橋村副党首の結びの言葉

「この社会は、軍事産業のものでも、一部の国会議員のものでもありません。私たち市民のものです。国の言いなりになるのではなく、何が本当に大切なのかを自分の心で判断し、誇りを持って声を上げていきましょう。青い空と子どもたちの笑顔を守るため、社民党は皆さんと共に歩み続けます」

【活動日誌】

毎週木曜日の早朝街宣は、市民との対話の最前線です。この日も、足を止めて聞き入る市民や、車中から激励を送る支持者の姿が目立ちました。党県連合としては、橋村副党首の訴えを軸に、憲法改悪阻止の署名活動と対話運動をさらに強化していく方針です。

橋村りか社民党副党首

「この社会は、軍事産業のものでも、
一部の国会議員のものでもありません。
私たち市民のものです。
国の言いなりになるのではなく、
何が本当に大切なのかを自分の心で
判断し、誇りを持って声を上げていき
ましょう。
青い空と子どもたちの笑顔を
守るため、社民党は皆さんと共に
歩み続けます」